

第59回日本小児保健協会学術集会 教育講演

グラウンデッド・セオリー・アプローチ入門

戈木クレイグヒル 滋子 (慶應義塾大学健康マネジメント研究科 / 看護医療学部)

1990年代中盤以降、多くの質的研究法に関する書籍が出版され、質的研究法を用いた論文が増えている。本稿でとりあげるグラウンデッド・セオリー・アプローチ（以下、GTA）も同様であるが、昨年、2000年から2010年までの間に発表された、GTAを用いたとする160本の原著論文を検討したところ、以下の問題が浮かび上がった。まず、研究法がデータ分析だけを指すと誤解されているのか、多くの論文ではリサーチ・クエスチョンやデータ収集についての説明が不十分だった。次に、研究法の混同があり、研究の趣旨に適した方法を選ぶという意識が低いように思われた。加えて、分析作業で使われている手順と技法に関する説明および用いられ方が適切ではなかった¹⁻⁴⁾。

以上から考えると、質的研究法を用いた原著論文の中でKJ法の次に多く使用され、研究法に関する書籍数が多いGTAでさえも、十分に理解され、適切に使用されているとはいえない状況にあるといえるだろう。本稿では、上述した検討結果の中で特に気になった、質的研究法は分析方法だけを指すという誤解に対する私見を述べた後、現時点で私が考えるGTAの特徴を述べたい。

I. 質的研究法は分析方法だけを指すという誤解

先に述べた論文検討を行った際、リサーチ・クエスチョン、データ収集に関しての記載がない論文が多く、リサーチ・クエスチョン、データ収集、データ分析の内容が一致しない論文も珍しくなかった。

多くの質的研究法に関する書籍で、データ分析の説明に大部分のページが割かれていることが、研究法＝分析方法という誤解を生じさせている要因の一つであるとすれば、私にも反省の余地がある^{註1)}。しかし、ある分析方法を使うために、それに適したデータを収集するのは当然のことで、よいデータが収集できなければ、よい分析はできない。リサーチ・クエスチョンから研究デザインを考え、適切だと思われる研究法を選んだら、その方法に沿ったデータ収集とデータ分析を行うべきである。そうしないと、適切なデータを収集し、リサーチ・クエスチョンに答えるような結果を見い出すことができなくなってしまう。

II. グラウンデッド・セオリー・アプローチの概要

それでは、ここからはGTAの説明に進みたい。GTAには、創始者である2人が、後に別個に作ったStrauss版とGlaser版がある。また、Strauss版の流れを汲むものとしては、Corbin & Strauss版や戈木クレイグヒル版がある。それぞれのGTAは異なっているので、その特徴と手順をよく理解したうえで使用するべきである^{註2)}。

GTAの特徴は、ある特定の場で登場人物たちが演じる役割と相互作用、そして結果として生じる変化のプロセスを『理論』として表現しようとする点にある。GTAにおける『理論』とは、概念同士の関連を文章で表したものである。データを大切に、データに根づいた分析を行いつつも、概念の関係づけによって

註1) 質的研究法は、分析法だけを指すものではない。これまでの本でそれを明示できなかったという反省を踏まえて、現在、GTAにおけるデータ収集の作業に関する本を執筆中である。

現象を表そうとする。以下, Strauss 版 GTA⁵⁻⁷⁾に基づく, 1) リサーチ・クエスチョン, 2) データ収集, 3) データ分析の考え方を紹介したい。

1) リサーチ・クエスチョン

質的研究では, その場でなにが起こっているのかをありのままにとらえることが大切だといわれるが, 目の前で生じている全てを把握することは不可能である。また, 全てを把握することがよい研究になるとも思えない。そこで, 研究の対象となる現象を出来事の中から切り取る必要がある。

このときに指標となるものが, その研究を通して, なにをどこまで明らかにしたいのかを文章で表現したリサーチ・クエスチョンである。GTA の特徴を踏まえると, リサーチ・クエスチョンには, 当然, ある状況が異なる状況に変化していくときのプロセスが含まれていなければならない。

2) データ収集

GTA では, 異なる状況に変化していくときのプロセスをとらえるために, 複数の方法を併用して, データを収集することが推奨されている。ここでは, GTA で併用されることの多い, インタビュー法と観察法をとりあげる。

①インタビュー法

インタビューを行う際に気をつける点に関しては, 拙本に書いたので省略するが⁸⁾, GTA のデータとして必要な, ある現象に関する, 語り手の考えや行動, 周囲の人や社会との相互作用を正確に把握するためには, 以下の2点が重要となる。

まず, あるべき論や抽象的な話ではなく, 現象の詳細を把握するために, 語り手がその時どう感じ, どう考え, どう判断したのか, その結果, どういう結果になったのかという経過がわかるようなデータを収集することが大切である。次に, 理解できない点や話の辻褄が合わない点に気づいたら, 失礼のないように気をつけながらも, はっきりと質問し, 語り手の話を正確

にとらえる努力をすることが重要である。

②観察法

観察では, ある場面の1部分に焦点を当てて観察し, 解釈を加えたものをデータにするため, インタビュー法以上に, リサーチ・クエスチョンの精度が問われる。リサーチ・クエスチョンに沿って, なにが現象の中心となる「図」で, なにが背景の「地」なのかを見極める力が必要とされる。

データを分析できる形に加工したテキストには, 登場人物の言動だけでなく, その言動の背後にある意味, そこに至るまでの考え, 判断, 気持ちの動きに関わる情報が必要である。このような情報を書きとめておかないと, データから言動の要約以上のものが見い出せなくなってしまう。

もちろん, これらの情報は, 収集者の主観的な解釈に基づくものであるため, 解釈の基となった根拠を書き, 信憑性を確認できるようにしておくことを忘れてはならない。また, 観察の後にインタビューを行って, 解釈の適切さを登場人物自身に確認することが望ましい。

観察法とインタビュー法で収集するデータは相補的なもので, 両方が揃うことにより, 現象を複眼的に検討することが可能となる。どちらを先に行うかは, リサーチ・クエスチョンやその場の状況によって異なる。

3) データ分析

GTA の分析作業では, 概念の抽出だけでなく, 概念の関連づけまでをめざしている。そのため, 他の質的研究法以上に, 概念抽出の作業の緻密さが必要とされる。データ分析の局面では, いったんリサーチ・クエスチョンを忘れて, カテゴリー関連図作成までの作業を進めることが大切である。リサーチ・クエスチョンに縛られてしまうと, それに合わせた結果を出そうとするために, 分析が間違った方向に進む可能性が高くなるからである。

以下, ①分析作業の流れ, ②中核となるプロパティとディメンション, ③カテゴリー関連図, ④間違っ

註2) GTA と名前が似たものとして, 修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (以下, M-GTA とする) があり, 同じものだという誤解も少なくない。しかし, M-GTA は以下の点で, GTA とは異なっている。まず, GTA の特徴である「切片化」, 「プロパティ, ディメンション, ラベル」, 「軸足コーディング」を使用しないことによって作業の簡略化が図られている。また, GTA の原則である「データ収集と分析とを, 交互に同時並行して行う」という方法を用いず, データをまとめて収集し, それらを分析した後必要に応じてデータを追収集するという方法が使われている⁹⁾。以上のように, M-GTA は GTA の特徴と原則が省かれた方法であることから考えると, 全く異なる方法として扱われるべきであろう。

方向に進まないための仕組み、⑤方向性の明示の順で説明したい。

①分析作業の流れ

GTAの分析は、3つのコーディング(オープン・コーディング、アキシシャル・コーディング、セレクトティブ・コーディング)によって構成されている。まず、オープン・コーディングでは、カテゴリーを把握し、命名するまでの作業を行う。次に、アキシシャル・コーディングではカテゴリー同士の関連を検討し、このあと、③で説明するカテゴリー関連図を描く。そして、アキシシャル・コーディングでいくつかの現象が把握されたら、最後に、セレクトティブ・コーディングを行って、抽象度の高い現象を把握する。

実際の分析作業では、オープン・コーディングから始めて、アキシシャル・コーディングに進むものの、カテゴリー関連図を描いてカテゴリー同士の関係を見たときに、カテゴリーの作り方やカテゴリー名のつけ方が適切でないことに気づいたら、すぐにオープン・コーディングに戻って修正する。さらには、セレクトティブ・コーディングに進んでも、おかしい点があれば、すぐにアキシシャル・コーディングやオープン・コーディングに戻る。このように、GTAではコーディングの間を行ったり来たりしながらの作業を行うことが特徴で、それによって、分析のズレを修正し、よりよい結果にたどり着く可能性が高くなる。

②中核となるプロパティとディメンション

GTAではプロパティとディメンション、ラベル、カテゴリーという概念を用いる。中でも、プロパティとディメンションは重要で、分析の最初から最後まで使い続けるものである。

プロパティはデータをどの角度から見たのかを示すものである。分析者に自分のものの見方を意識させ、他の見方の可能性にも気づかせる。また、ディメンションは、プロパティという視点から見たときのデータの位置づけを示すもので、データがどの位置にあるのかだけでなく、その位置が変化したときに状況がどう変わるのかまでを意識させる。

プロパティとディメンションを使うことには、以下のメリットがある。まず、プロパティとディメンションを手がかりにして、抽象度を少しずつ上げてカテゴリーにたどり着くという仕組みによって、概念の抽象度を上げる際に分析者のバイアスがかかってしまう危険性を最小限にとどめる。

次に、カテゴリーを正確に把握するために有効であることに加え、プロパティとディメンションを用いて説明すれば、なぜデータをそう解釈したのかという理由をわかりやすく説明できる。さらに、このあと述べる、カテゴリー同士の関係を把握する際にも、分析者のバイアスを排除して、よいアイデアにたどり着く手助けとなる。以上のようなプロパティとディメンションの役割を考えれば、データ収集の局面で、プロパティとディメンションが豊富なデータを収集する重要性がおわかりいただけるはずである。

③カテゴリー関連図

先に述べたように、GTAではデータに表れた現象について概念同士の関係を明らかにして、『理論』を作り上げようとする。しかし、カテゴリー同士をプロパティとディメンションで結びつけるという点がわかりにくいために、分析者の主観的な解釈だけで結びつけてしまい、要約や空想の域を出ない結果を示した論文があまりにも多かった。そこで、私のバージョンでは、カテゴリー関連図を描くことによって、カテゴリー同士の結びつけの根拠を可視化する作業を加えた¹⁰⁻¹²⁾。

カテゴリー関連図では、プロパティとディメンションを使うことによって、カテゴリー(概念)同士の関係を論理的にとらえようとする。この作業では、データに出てくる時系列にとらわれないで、カテゴリー、プロパティ、ディメンションだけを見て適切な関連づけを考える。時系列に引っ張られてしまうと、事例の要約の域を出ることができなくなってしまうからである。

カテゴリー関連図を描くことで、分析者の思い込みによってカテゴリーを関連づけてしまうことを防ぐ。また、どのようなプロパティが不足しているのか、どのプロパティのディメンションをどう変化させれば、プロセスと結果がどう変わるのかまでを把握することができる。さらに、通常の自分の思考を越えて、思いがけないアイデアにたどり着く可能性が高まるし、他者と研究結果を共有しやすくなる。

④間違った方向に進まないための仕組み

GTAには、分析が間違った方向に進みそうなときに、それを止めるための仕組みがある。まず、概念名(ラベル名、カテゴリー名)をつけるたびに、基となった切片データと摺り合わせ、ズレがないのかを確認することにより、概念名のつけ方がおかしいときには、それに気づかせる。

カテゴリー関連図を描くときにも、分析に間違いがあれば、カテゴリーの関連づけができないことによってそれを知らせる。間違いの理由としては、カテゴリーの作り方の問題、カテゴリーの命名の問題、現象毎のカテゴリー分類の問題などがある。このように、分析作業のいろいろな局面で、間違いに気づく仕組みがある点は、GTAの大きな強みである。

⑤方向性の明示

データ収集と分析とを交互に行うことはGTAの特徴である。GTAでは、データを1つ収集したら、すぐに分析を行い、カテゴリー関連図を描くところまで進む。その後、理論的サンプリングを行って、不足しているプロパティを確認し、理論的サンプリングを基にして、次のデータ収集を計画する。

分析のたびに、同じ現象に関するカテゴリー関連図とそれを基にした関連統合図ができるので、研究の進み具合と、不足しているデータを確認することができる。最終的に、これ以上新しいカテゴリー、プロパティ、ディメンションが出てこない状態になったら、理論的飽和に至ったと考え、発表することになっている。しかし、私はそこまでたどり着かないうちでも、報告する意義のある新しい知見を把握できたら、飽和に至っていない点を明記したうえで発表すべきだと考えている。

Ⅲ. 最 後 に

よい研究結果にたどり着くためには、何かを明らかにしたいというパッションに加えて、それを可能にするためのテクニックが必要となる。研究者自身が道具となって研究を進める質的研究の場合には、研究者のバイアスを可能な限り排除しつつ、リサーチ・クエスチョンを決定し、データを収集し、分析を行うテクニックが必要となる。これらの作業を明文化して学びやすくしたものが研究法である。

本稿ではGTAを用いた研究の流れを概観した。データ分析が、リサーチ・クエスチョンやデータ収集作業と不可分であることがわかりいただけたらどうか。GTAは研究が間違った方向に進まないように規制をかける仕組みと、アイデアの産出を促進する仕組みの両方を兼ね揃えた優れた研究法である。分析の手順や詳細については成書をお読みいただき、正しく理解したうえで使用していただくことを願ってやまない。

文 献

- 1) 戈木クレイグヒル滋子, 三戸由恵, 関 美佐. 日本の医療分野における質的研究論文の検討 (第1報): 論文数の推移と研究法の混同. 看護研究 2012a; 45: 481-489.
- 2) 戈木クレイグヒル滋子, 三戸由恵, 関 美佐. 日本の医療分野における質的研究論文の検討 (第2報): 研究法の選択とデータ収集. 看護研究 2012b; 45: 578-586.
- 3) 戈木クレイグヒル滋子, 三戸由恵, 関 美佐. 日本の医療分野における質的研究論文の検討 (第3報): データ分析. 看護研究 2012c; 45: 694-703.
- 4) Saiki-Craighill, S. (in print) Qualitative Nursing Research in Japan: A State of the Science and Indications for Future Directions, 597-609. (Ed.) Beck, C. T. International Handbook of Qualitative Nursing Research, Routledge.
- 5) Corbin JM, Strauss AL. Basics of qualitative research: Techniques and procedures for developing grounded theory, 3rd ed. Thousand Oaks: Sage Publications. 2008. / 操 華子, 森岡 崇訳. 質的研究の基礎: グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第3版, 医学書院, 2012.
- 6) Strauss AL. Qualitative Analysis for Social Scientists. New York: Cambridge University Press. 1987.
- 7) Strauss AL, Corbin JM. Basics of Qualitative Research: Techniques and Procedures for Developing Grounded Theory, 2nd ed. Thousand Oaks: Sage Publications. 1998. / 操 華子, 森岡 崇訳. 質的研究の基礎: グラウンデッド・セオリー開発の技法と手順 第2版, 医学書院, 2004.
- 8) 戈木クレイグヒル滋子編著, 三戸由恵, 岩田洋子, 上原和代, 山本美智代, 鈴木希代子, 深堀浩樹. 質的研究方法ゼミナール: グラウンデッド・セオリー・アプローチを学ぶ増補版. 医学書院. 2008a; 21-44.
- 9) 木下康仁. グラウンデッド・セオリー・アプローチの実践: 質的研究への誘い, 弘文堂, 2003.
- 10) 戈木クレイグヒル滋子. グラウンデッド・セオリー・アプローチ: 理論を生みだすまで, 新曜社, 2006.
- 11) 戈木クレイグヒル滋子. 実践グラウンデッド・セオリー・アプローチ: 現象をとらえる. 新曜社, 2008b.
- 12) 戈木クレイグヒル滋子編, 三戸由恵, 岩田洋子, 鈴木希代子, 山本真梨子. グラウンデッド・セオリー・アプローチ 実践ワークブック. 日本看護協会出版会, 2010.